

	発行者 書名	東京書籍株式会社 新編 新しい算数	大日本図書株式会社 新版 たのしい算数
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じっくり考える教科書</li> <li>・学びを楽しむ教科書</li> <li>・しっかり身につける教科書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えるって楽しい！を育てる教科書</li> <li>・算数大好き！を育てる教科書</li> <li>・わかった！できた！を育てる教科書</li> </ul>
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各単元で得た知識・技能を定着するための「学習のしあげ」、復習するための「おぼえているかな」、補完するための「ほじゅうのもんだい」が設定されている。</li> <li>②単元で扱った数学的なものの見方や考え方を生かし、価値付けしていく時間として、単元末に「つないでいこう算数の目」が適宜設定されている。</li> <li>③第4学年以降では、巻頭に「私と算数」を設定し、アスリートや宇宙飛行士の話から、算数の身近さや有用性を味わう工夫がされている。また、日常生活で算数を活用する場面として「いかしてみよう」の問いが設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各単元で得た知識・技能を定着するための「たしかめ問題」、復習するための「〇年の復習」、補完するための「プラス・ワン」が設定されている。</li> <li>②第2学年以降では、巻頭に「算数の大切な考え方」を設定し、その巻で扱う数学的なものの見方や考え方を、集約して紹介している。</li> <li>③第3学年以降では、「ふくろう先生のなるほど算数教室」を設定し、算数への興味・関心をもたせ、実社会で生かされる算数の学びを紹介している。また、「お仕事インタビュー」を設定し、算数とキャリア教育を結び付けている。</li> </ul>
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表やグラフの単元では、海洋プラスチックのようなSDGsを視点に入れた設問の他、子どもの体力の低下や熱中症の増減など、児童の身近に感じる問いが多い。また、割合の単元では、我が国の森林面積を概算する問いが設定され、環境や生き方など多様な視点を育めるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャラクターが設定され、それらが平等に話し合う様子が描かれている。また、「なるほど算数教室」や表やグラフの単元を中心に、SDGsなど社会の諸問題に関する問いが設定され、環境や生き方など多様な視点を育めるようにしている。</li> </ul>
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実生活の場面を想定した単元プロローグを設定している他、視覚資料として20本のオープニングムービーを設定している単元がある。「今日の深い学び」で、主体的・対話的で深い学びの場について学ぶ機会を設けている。</li> <li>②理科の「ものの重さ」や外国語を中心に関連が見られる。これらは専用マークを配し、関連教科を明確にしている。単元末の「たしかめよう」は、短時間学習でも生かせるよう、設問を15分程度毎で区切っている。</li> <li>③自分の考えを順序立てて述べる手立てについて学習する「今日の深い学び」の時間を設定している。</li> <li>④第5学年では国内の世界遺産について扱っているほか、第6学年では、日本独自の計算方法である鶴亀算・油分け算などの和算を取り扱っている。</li> <li>⑤第3学年以上の巻末に「かたちであそぼう」が設定されている。またデジタルコンテンツの一部には、描画などの操作活動を伴うものがある。</li> <li>⑥第1学年①巻は、ブロック操作の活動を考慮し、大型のA4判中綴じ製本が採用されている。また、ノートを使用せず教科書に直接書き込めるようにしている。</li> <li>⑥第6学年の最終に「算数のしあげ」を設定し、領域ごとに復習するとともに、巻末の「算数卒業旅行」で算数をもとに数学へのイメージをもたせるようにしている。</li> <li>⑦第4学年以上ではプログラミング学習の他に「算数で読み解こう」を設定し、身近な教育課題や、現代社会問題などを題材に複数データからの読み取りと判断をする課題設定がある。</li> <li>⑧デジタルコンテンツを中心につまずきに対応した対策用問題を設定している。</li> <li>○豊富なデジタルコンテンツを用い、練習問題や操作活動、図形の変化などを視覚的に捉えられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①実生活の場面を想定したアプローチページを設定し、児童が疑問や課題を見出しやすいよう配慮している。「じっくり深く学び合おう」を設定し、授業風景の写真を通して、主体的・対話的で深い学びの練習の場を設けている。</li> <li>②社会科の歴史や音楽科の音符の長さなど、幅広い関連が見られる。これらは専用のリンクマークを配し、関連教科を明確にしている。また、目次ではその単元の前後の学年間のつながりも明記している。</li> <li>③巻頭資料として「算数の学び方」を設定し、ノートの書き方や感想の具体例などを掲載している。</li> <li>④第5学年で、和算が紹介されている他、第6学年では、尺や坪といった、我が国独自の単位について扱っている。</li> <li>⑤「なるほど算数教室」で模様作りの活動が設定されている。また、測定領域では、実物の測定活動が豊富に設定されている。</li> <li>⑥第1学年①巻は、ブロック操作の活動を考慮し、大型のA4判中綴じ製本が採用されている。マス目の大きさは市販品と揃えて、共通化を図っている。</li> <li>⑥第6学年の巻末に「数学の世界へ」を設定し、発展的な問題を扱っている他、数学の学習内容の一部を掲載し、算数の学習との比較を行っている。</li> <li>⑦第1学年からプログラミング学習を設定し、機器を使用しないアンブラグドプログラミングも含めて、プログラミング的思考の積み重ねができるよう配慮されている</li> <li>⑧計算の型の違いなどを色で明確に分け、習熟度に応じた指導がしやすいようにしている。第3学年までは、「おうちで算数」を設定し、学習内容を家庭生活でも生かせるよう、家庭との連携も考慮したサポートページが設定されている。</li> <li>○豊富なデジタルコンテンツを用い、練習問題や操作活動、図形の変化などを視覚的に捉えられるようにしている。</li> </ul>
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①概ね適切である。</li> <li>②ユニバーサルデザインの観点から、マークではなく記号や言葉を多用するとともに、カラーバリエーションに配慮している。</li> <li>③配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①概ね適切である。</li> <li>②ユニバーサルデザインの観点から、UDフォントを採用し、かつ問題解決の流れを把握しやすくするための表示など、安心した学習に配慮している。</li> <li>③配慮されている。</li> </ul>	
(イ) 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各単元末に「たしかめよう」を設け、単元内で扱った知識や技能の定着を図るとともに、巻末に「ほじゅうの問題」を設け、習熟度に合わせて学習を補完する工夫がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①巻末に補充問題「プラス・ワン」を設け、進度や習熟度に合わせて学習を補完する工夫がされているほか、計算領域を中心に、デジタルコンテンツとして追加の練習問題が設定されている。</li> </ul>
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>②学習の積み重ねに配慮し、「割合」や「分数」といった単元に向け、低学年から発達段階に応じて数直線やテープ図を効果的に配置し、学年が上がっても、統一性・関連性を意識して学習を積み重ねられるよう配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②テープ図や数直線の指導を充実させ、第1学年の段階から具体操作をはじめ、学年の発達段階に合わせて適切な表現方法を学習しつつ、系統的に図や表に親しめるよう配慮している。</li> </ul>
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>③統計的な課題解決のために、第5・6学年では、「PPDAC サイクル」の学習を設定している。データを鵜呑みにしないための批判的思考を養う学習として「データにかくされた事実にせまろう」が設定され、活用のための素地作りに配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③統計的な課題解決のために、第5・6学年では「PPDAC サイクル」の学習を設定している。情報リテラシーに関する記載について触れているほか、それまでの学年でも、批判的思考を養う課題を複数設定している。</li> </ul>

	発行者 書名	学校図書株式会社 みんなと学ぶ 小学校 算数	教育出版株式会社 小学算数
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的に学びたい教科書</li> <li>基礎・基本を身につけ、算数を深めたい教科書</li> <li>見方・考え方を身につけたい教科書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見力・解決力・追究力を育てる教科書</li> <li>見方・考え方を働かせて学び合う教科書</li> <li>学びをつないで確かな学力を育てる教科書</li> </ul>
	（フ）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各単元で得た知識・技能を定着するための「できるようになったこと」、復習するための「〇年の復習」、補完するための「もっと算数」が設定されている。</li> <li>②教科書で扱う数学的なもの見方や考え方を「考え方モンスター」として表すとともに第2学年以降は上巻の巻頭で前学年の見方・考え方を振り返っている。</li> <li>③単元の前に「？を発見」を設定し、自分たちで課題を発見する場面や、主体的に課題を解決していく活動をイメージしやすくしている。また「算数をつかって」を設定し、調べ学習を通して、現代社会の諸問題やデジタル・シティズンシップなど社会で生きるための素地を形成できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎時の知識・技能のまとめに「まとめアニメーション」を設け、文字だけでなく視覚的にも理解が深められるようにしている。巻末の「学びのマップ」では、下学年の内容も「まとめアニメーション」で振り返ることができるようにしている。</li> <li>②数学的活動の過程を「はてな？⇒なるほど！⇒だったら！？」という問いの連続で構成し、主体的・対話的で深い学びが実現されるようにしている。</li> <li>③単元ごとの活用問題として「学んだことを使おう」を設け、身のまわりから算数を見つけたり、算数を使って日常の問題を解決したりしている。また、知識を広げるコラムを随所に設け、知的好奇心が高められるようにしている。</li> </ul>
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs など地球規模の問題について扱っている一方、第5・6学年では、「算数をつかって」や「割合」などで、食べ物の量やフードマイレージ、バランスを考えた食事などを扱い、食と健康の視点を育めるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスや再生可能エネルギーに関するグラフを調べる場面を題材として取り上げたり、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を教材として扱ったりして、SDGsの達成や環境に寄与する態度が育つようにしている。</li> </ul>
	（ク）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①身近な場面を想定した「？を発見」を設定し、興味・関心をもちやすいよう配慮している。また、対話活動をイメージさせる挿絵を配し、話し合いながら学んでいく姿勢を育めるようにしている。めあてとまとめを目立つ色で示している。</li> <li>②第6学年では、家庭科と関連させて「バランスのよい食事を考えよう」の学習課題が設定されている。</li> <li>③「1つ分を作る」「分けてみる」などの特に身につけたい見方・考え方は、「考え方モンスター」というキャラクターで表し、楽しみながら学べるよう工夫している。</li> <li>④第2学年では、形の学習で着物の模様を扱っている。第4学年では、わり算の応用問題として、はさ木の間隔を扱っている。また、写真の一部には山寺や花火大会など、日本を代表する建物や行事を扱っている。</li> <li>⑤測定領域では、身の回りのものの長さを測る学習が設定されている。また、アンプラグドプログラミングが設定され、付録を使った活動を設定している。</li> <li>⑥これまでの遊びの経験を振り返る活動など、児童が幼保の経験を学習に生かせるような問いが設定されている。</li> <li>⑥第6学年では「中学校へのかけ橋」を別冊として設定し、算数のふりかえりと、それらを生かした数学での学びに触れられるよう配慮されている。</li> <li>⑦プログラミング学習の他、現代社会の抱える諸課題に対して、「算数をつかって」を設定し、SDGsや現代社会の抱える諸課題が紹介されている。</li> <li>⑧第2学年以降では「算数パトロール隊」を設定し、つまずきやすい内容について、誤答やつまずく理由を具体的に示し、対策をとれるように工夫されている。</li> <li>○デジタルコンテンツを用い、練習問題や操作活動、図形の変化などを視覚的に捉えられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元導入の「きっかけ」ページでは、子どもが能動的に関われる教材を用意し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしている。</li> <li>②町探検や気温調べの活動を題材にし、教科横断的に取り組めるように工夫している。また、各単元の「まとめ」の内容は、「見方・考え方」「知識」「技能」に分けて、それぞれ10～15分程度の短時間でも取り組めるように構成されている。</li> <li>③巻頭の「算数で使いたい見方・考え方」や、毎時の「なるほど！」などでは、子どもの言葉で見方・考え方を表現し、学び合いの場面でもそれらの言葉を使って学び合えるようにしている。</li> <li>④「和食」「伝統工芸品」「和算」など、伝統や文化に関わる場面を教材にして、興味・関心が高められるようにしている。</li> <li>⑤ブロックやおはじき、折り紙などの具体物を用いるなど、具体的な操作によって学ぶ活動(ハンズオン)によって、実感的な理解が得られるように工夫している。</li> <li>⑥第1学年では、生活科との関連を図り、スタートカリキュラムとして全単元にとびらページを設け、生活経験をきっかけに学習を始めるようにしている。</li> <li>⑥第6学年の最後には「算数をふり返ろう！もっと楽しもう！」を設け、総まとめをして自信をつけるとともに、中学校数学科につながる教材にも触れるようにしている。</li> <li>⑦全学年においてプログラミング教材や表計算ソフトを用いた活動を取り入れている。プログラミング教材は操作が簡単な独自開発の教材を使い、第6学年では、表計算ソフトを使ったグラフのつくり方も取り上げている。</li> <li>⑧問題解決に必要な知識・技能等の振り返りページ「学びマップ」を設けることで、子どもの習熟度に応じた支援ができるようにしている。</li> <li>○デジタルコンテンツ「まなびリンク」では、まとめアニメーションや作図手順の動画、試行錯誤的な操作が可能なシミュレーションを設けている。</li> </ul>
（キ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①概ね適切である。</li> <li>②UDフォントを採用し、やや太くなっているほか、カラーバリエーションに考慮し、見やすく区別しやすい色やデザインを採用している。</li> <li>③配慮されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①概ね適切である。</li> <li>②文章表現は、正確、簡潔、かつ子どもにも誤解のないわかりやすい表現を用いている。UDフォントを採用し、識別しやすい配色を用いている。</li> <li>③配慮されている。</li> </ul>	
（イ） 教科・種目別の観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各単元末に「できるようになったこと」を設け、単元内で扱った知識や技能の定着を図るとともに、巻末に「ほじゅう問題」を設け、学習を補完する工夫がされている。また、児童が苦手意識をもちやすい内容は「算数パトロール隊」を適宜設定して対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「毎時の学習」では、全体での練り上げ・解決・まとめの後に、「たしかめ」の問題を位置づけている。単元の中に「復習」をはさみ、「まとめ」では、典型的な誤答がみられる問題にマークを付けて意識化を図っている。また「学年のまとめ」を設け、基礎的な知識・技能が定着するようにしている。</li> </ul>
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>②第1学年では半具体物の操作から始まり、学年が上がるにしたがってテープ図作り、数直線作りと、課題の意味理解や本質に迫る手だてが学年の発達段階に応じて系統的に配置されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②テープ図(線分図)や数直線、式などを使って考えたり説明したりする力が、段階的に育てられるようになっている。また、式のよみ方、表し方について、繰り返し扱うことで理解を深め、式を活用する能力の伸長を図っている。</li> </ul>
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>③統計的な課題解決のために、第5・6学年では、「PPDAC サイクル」の学習を設定し、各学年とも、データの「整理」と「活用」の2つに分け、異なった単元として学習する。PPDAC サイクルについては、教科書の挿絵に説明を加え、段階的に捉えられるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③統計の学習では、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度が養われるような題材を設定し、統計的な問題解決の方法を使って考えられるようにしている。</li> </ul>

	発行者 書名	株式会社新興出版社啓林館 わくわく 算数	日本文教出版株式会社 小学算数
（ア） 教科・ 種目に 共通な 観点	①編修の趣旨と工夫	・生活していく上で、基礎となる数学的知識・技能を習得できる教科書 ・筋道を立てて考える能力を育て、ものごとを合理的に処理する思考力・判断力・表現力等が育成できる教科書 ・新しいものごとを理解し、創造する能力と学びに向かう力・人間性等が涵養できる教科書	・筋道立てて考え表現するための学び方を育む教科書 ・生活や学習の基盤となる算数の礎を身に付けることができる教科書 ・算数の楽しさやよさをしっかり感じられる教科書
	（フ）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各単元に『復習』や『練習』のコーナーを設けて、確かな理解の定着が図れるようにしている。 ②思考法単元『見方・考え方を深めよう』を設定し、数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に解決する力が育成できるようにしている。 ③『学びをいかそう』では、学習したことを算数や生活に生かして、算数の有用性を実感できるようにしている。	①単元前には既習事項を確かめる「次の学習のために」を設けている。新しい内容を抽象化、一般化する過程をていねいに扱うとともに、「数」「量」「図形」の感覚が豊かになるようにしている。 ②巻頭に「さあ、算数の学習をはじめよう!」、巻末に「学び方ガイド」を設け、主体的・対話的で深い学びにつながる問題解決的な学習展開を示している。 ③単元内に「使ってみよう」を設け、教室内外で数学的活動に取り組めるようにし、習得した知識や技能を生活や学習に活用しようとする態度が育つようにしている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・第3学年以上に『わくわく SDGs』のページを設け、「食品ロス」、「ごみ、リサイクル」、「エネルギー」「水害」などのテーマを扱うことで、持続可能な社会の創り手になることができるようにしている。	・米の供給や節水、海岸のごみなど身近な SDGsの課題と算数を結び付け、探究的な問題を設定している。また、避難経路や安全に関する意識を取り上げ、防災教育にも配慮している
	（ク）内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、すべての問題に「めあて」「まとめ」を設定し、児童が目的をもって学べるようにしている。 ②第1学年国語科「かぞえかた」、第4学年理科「気温」など、様々な教科・道徳等と関連した題材を扱っている。 ③第2学年以上の「算数で使うことば」のコーナーで「はじめに」「次に」「だから」などの言葉を紹介し、言語活動において数学的に論理的な表現をする力が育成できるようにしている。 ④「鯉のぼり」「ひろ・あた・つか」「金箔工芸」「日光東照宮」など、日本の文化に触れる題材や、訪日外国人の数など、他国や国際理解に関する教材を扱っている。 ⑤具体と抽象とを往還して学びを深めていくことを大切にしており、巻末に付録をつけ、具体操作を通して実感を伴った理解ができるようにしている。 ⑥第1学年は、幼児期の体験を生かしながらスムーズに小学校生活や学習に移行できるように『すたあとぶっく』(A4判・中綴じ製本)を用意している。 ⑥第6学年では、「6年生のまとめ～数学へのパスポート～」で小学校の学習を総復習し、どのように数学につながるかを紹介している。 ⑦全学年に「わくわくプログラミング」の単元を設け、楽しみながらプログラミングを体験し、プログラミング的思考・論理的思考力が身につくようにしている。 ⑧児童がつまずきやすいとされる内容に、どこで間違えたのかわかる解説スライドやくり返し学習ができる練習問題、ヒントや答えの確認などのデジタルコンテンツを用意している。 ○ 操作、動画、問題、スライド、解説動画など、実体験のよさも考慮しながら、算数の学びがより深まる ICT コンテンツを配置している。	①各時の展開では、「めあて」と「まとめ」に加え、見通しや数学的な見方・考え方を示す学習の流れを徹底することにより、数学的活動を通じた学習としている。 ②学校での生活場面、気温の変化、トライアスロン、マラソン、作物の取れ高、英語による問題の表現など、生活科・理科・体育科・社会科・外国語科などの教科と関連の深い題材を取り上げている。 ③全学年に設けた「自分で みんなで」では、4段階に整理した問題解決的な学習の過程(問題把握→見通し・解決→話し合い→ふり返り)と具体的な着眼点を示し、言語活動が充実するようにしている。 ④学習時期に合わせて、季節の草花や動植物、夏祭りなどの風物、和食や和算など伝統と文化に親しむことのできる、算数に関わりのある題材を掲載し、子どもの関心が高まるようにしている。 ⑤単元内に「使ってみよう」を設け、教室内外で数学的活動に取り組めるようにし、知識や技能を生活や学習に活用しようとする態度が育つようにしている。 ⑥第1学年では、無理なく算数の世界に入れるように『しょうかく さんすう1①』(B5判・中綴じ製本)を用意し、読み聞かせできる絵本仕立てになっている。 ⑥第6学年に「もうすぐ中学生」を設け中学校で学習する内容を紹介し、中学数学への関心が高まるようにしている。 ⑦全学年の下巻末にプログラミング的思考を扱う「レッツプログラミング」のページを設けている。高学年では、具体的にプログラミング教材を用いて、プログラミングに取り組める内容になっている。 ⑧「算数マイトライ」では、子どもの実態に応じて柔軟に取り扱いができる多彩な問題を集めている。 ○ デジタルコンテンツでは、シミュレーションやアニメーション、練習問題など、デジタル教材を用いることができるようになっている。
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①おおむね適切である。 ②UD フォントの採用、色覚の特性によらず学びやすい配色の工夫、文章の改行を文節で行う等、UD への取り組みや特別支援教育への配慮がなされている。 ③配慮されている。	①概ね適切である。 ②図形に使う色をクリーム色で統一し、グラフや表の色は、見分けやすい色にしている。UD フォントを採用し、本文には色文字を使わないようにしている。 ③配慮されている。	
（イ） 教科・ 種目別の 観点	①数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	①すべての基本単元にレディネスチェックを用意している。また、各時間の本文にある練習問題に加え、各単元末に『学びのまとめ』、巻末『もっと練習』など、練習や復習を図るコーナーを配置している。『もっと練習』は、補充問題や挑戦問題を用意し、習熟度に応じて取り組むことができるようにしている。	①新しい単元に入る前に、関係する既習事項を確かめる「次の学習のために」を設け、基礎的な知識及び技能が定着するようにしている。単元末の「わかっているかな」では、つまずきやすい学習内容をふり返れるようにしている。また学期・学年末に扱う「復習」に、単元内容をふり返る問題を用意している。
	②具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考え、表現し、さらに伝え合うような題材として工夫や配慮がなされているか。	②演算決定にかかわる図の系統を意識し、第1学年から第3学年にかけての加法・減法では、具体的な操作を図的に表現していく過程を丁寧に示している。テープ図や線分図のかき方は、操作の手順と揃うように配慮している。第3学年からの乗法・除法では、数量関係に着目できるように一貫して関係図を扱っている。	②「よみとろう あらわそう」では、言葉と図・式の関係や、テープ図・数直線図のよみ方やかき方を系統的に整理している。 ②「自分で みんなで」では、式や図、表を用いて考えの相違点や共通点について説明する学習活動が設定されている。
	③目的に応じてデータを収集、分類整理し、結果を適切に表現する題材や、統計データの特徴を読み取り判断する題材として工夫や配慮がなされているか。	③統計単元では、「PPDAC(問題・計画・データ・分析・結論)」のプロセスを意識した単元構成にしている。第6学年では、身近な「大縄跳び」を取り上げ、統計的な手法を活用しながら問題解決する過程をPPDACサイクルに沿って展開している。	③統計的な問題解決の方法について子どもの関心が高まるように、PPDAC サイクルを図解で詳しくていねいに扱い、実践に結び付けられるようにしている。「使ってみよう」では、身の回りのデータを集め、考察する活動を取り上げている。